

東京教区時報

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nskk.org
Phone: 03-3433-0987 Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第1000号

2006年7月16日発行

日本聖公会東京教区

港区芝公園3 6 18

編集人 伊藤裕元

【1000号に寄せて】

1000号！ありがとうございます

東京教区主教 植田仁太郎



この「教区時報」がまだ月刊の時代から数えて、遂に、記念すべき第一〇〇〇号の発行に至ったということです。

記録によれば、一九九三年一月から、今のような週刊になったそうである。その週刊第一号が第四一九号だったそうです。とすると、週刊という形で五八一号を重ねたことになりました。

教区のどなたが発案なさって週刊」といふ、いわば革命的な発行形態になったのか存じませんが、その発行体制を造り上げて下さった、歴代の広報委員会の方々のご苦労は、大変なものであったらと、ただただ感謝するばかりです。そして委員さんではないけれども印刷・発送などを、確実にこなして下さった方々にも御礼申し上げます。

毎週、教区全体に共通の情報が届けられるというのは、簡単にできそうである。今の週刊で「コンパクトに」という形態以外には、ちよと不可能かも知れません。教区の人々が自分の教会以外に想いを馳せ、関心をもつてゆく上で、偉大な働きをして下さったと思います。今後とも一層の紙面の充実を期待したいと思います。

人は、ちゃんと与えられているのに、ついつい「無いものねだり」をしてしまいます。「コンパクトな個々の情報の共有は、見事に果たされるようになりました。その上で、年に二回程度、やや長いエッセイや解説や、国際的議題が載せられる雑誌があったらなあ」と、時々夢見ます。

1000号！ありがとうございます。

《教区時報でたどる略年史》

最終頁から掲載(19頁まで)

…一九四九年(昭和24年)7月に「教区時報」を創刊して以来、本号で通算一〇〇〇号を迎えた。月刊時代約44年間に計四一八号、週刊時代計13年半で計五八一号…、通算57年を経ての紙齢一〇〇〇号。

…歴史的には、教区成立一九二三年・大正12年(の翌年)3月に「教区時報」が発行されている。また第二次世界大戦後には、一九四八年(昭和23年)に「再刊教区時報」が計8号出されている。そのため、冒頭に記した一九四九年版は復刊第一号」として発行されていて、以後の通算数字の起算号となつて引き継がれ、現在に至っている。

…こうした経過から、戦前時代のものを別個の公刊歴史資料とみなし、戦後一九四八年度版を復刊準備号として位置づけして、いずれも一〇〇〇号の通算対象から外した。ただ巻末から始まる「略年史」では、後者の復刊準備号の記録を一部、併載した。

感謝と期待

主教 竹田 眞

月刊・週刊の教区時報 創刊から一〇〇〇号の記念、おめでとつございます。編集を担当されてきた委員の方々の編集技術、また忍耐強いご努力に感謝申し上げます。

主教となつて初めの頃、週報に毎週、聖書日課の記事を書かされ、それも確か一年間、当時は普段でも忙しい時を過ごしていた頃でさらに仕事が増え、この企画のどばうちりを受けた一人です。一〇〇〇号記念日を感謝をもって迎えるとともに、恨みの気分も多少、残っております。

とくに苦労したのは小さな紙面になつて字数が極めて限定されたことで、俳句をつくるような気分で聖書のメッセージをできるだけ簡潔に書くことに頭をひねつたものでした。委員たちは編集技術とともに、執筆依頼の技術もなかなか巧みで、締め切りまで間に合わせてしまつ腕も大したものだと感服いたしました。

月刊から週刊に刷新したことは、激変する現代社会の実情に即応する企画と評価しています。現代社会は目を眩る大事件もひと月も経つと忘れさせてしまつような時代です。評価すると同時に期待することは、教区・教会の「時報」としての霊的向上を促す役割、つまり目まぐるしい現代社会の中においても静かに立ち止ることを読者に促す役割です。そして過去と将来を振り返り展望し、激変する環境の中で、永遠不変の神の働きを日々新たに伝える「時報」として、神の器であり続けていたいただきたいと思ひます。

(前東京教区主教・元首席主教)

交わりの場として

主教 五十嵐正司

「東京教区時報一〇〇〇号」おめでとつございます。

わたしも広報委員として教区時報の編集に3年程関わつた者として、一〇〇〇号を発行できまふことを嬉しく思ひますと共に、委員の方々のこれまでの「苦勞と

目次に代えて

- 寄稿 一〇〇〇号に寄せて》 主教 卷頭 3頁 歴代編集人 4頁 7頁 読者の声・読者アンケートから 8頁 10頁
- 資料 1 教区主教・被選聖職 3頁 歴代編集人 5頁
- 資料 2 教区時報に見る教区略年史 卷末 28頁 19頁
- 資料 3 時報の創刊・再刊・復刊 1頁 一ツの発刊の辞 19頁 略年史注記 27頁
- 資料 4 教区予算の変遷 17頁 教区フェスティバル・テーマ一覧 11頁
- 資料 5 長寿シリーズコラム 18頁
- 資料 6 時報巻頭頁・誌名タイトル印刷物などの変遷カッター集 12頁 16頁

お働きに感謝いたします。

一〇〇〇号を編集する委員の方々の喜びと興奮と緊張を想像いたします。

九州に行きましても、わたしは東京教区の皆さんの様子に触れたくて、東京教区ホームページを開き、教区時報を読みます。

先ず、1面を、誰が書いてるか名前を見て、その人の顔を思い浮かべながら懐かしく思い記事を読みまふ。次には旅立ちされた方々の欄を見まふ。お名前とお顔を思い起こせる方です。しばらく思い出にふけります。

また、各教会のプログラムにも関心が向きます。教会の外観内部が目につかび、また教会の人々の姿も思い浮かびまふ。

教区時報を読むのが楽しみなのは人々の顔を思い起こし、心で交わりを確かめられるからなのでしょう。教区時報によつて遠くに居ても声援と祈りができます。

心の交わりと協働の意欲を促進してもらえ教区時報をこれからもわたしは読み続けるでしょう。

(九州教区主教)

戦後の東京教区主教 他

(含、他教区主教就任、被選辞退の聖職 除、補佐主教・管理主教)

| | | 在任期間または就任・被選年 |
|---------|-----------------|---------------|
| 佐々木鎮次主教 | 第3代教区主教 | 1935年～1946年 |
| | 第6代首座主教 | 1941年～1945年 |
| 蒔田 誠主教 | 第4代教区主教 | 1947年～1959年 |
| 野瀬秀敏司祭 | 南東京教区主教就任 | 1953年 |
| 後藤 真主教 | 第5代教区主教 | 1959年～1979年 |
| 今井正道司祭 | 東北教区主教就任 | 1969年 |
| 佐々木厚司祭 | 中部教区主教選挙で被選・辞退 | 1976年 |
| 西村哲郎司祭 | 総会で東京教区主教に被選・辞退 | 1981年 |
| 八代 崇司祭 | 北関東教区主教就任 | 1985年 |
| 山田 襄主教 | 第6代教区主教(総会選出) | 1982年～1987年 |
| 竹田 眞主教 | 第7代教区主教 | 1988年～2001年 |
| | 第15代首座主教 | 1998年～2000年 |
| 五十嵐正司司祭 | 九州教区主教就任 | 1998年 |
| 加藤博道司祭 | 東北教区主教就任 | 2003年 |
| 関 正勝司祭 | 北関東教区主教に被選・辞退 | 2003年 |
| 植田仁太郎主教 | 第8代教区主教 | 2001年～ |

「コミュニケーションから
コミュニケーションへ」
主教 加藤博道
ある日のわたしの教会巡回の

運転距離は往復六六〇キロ東
京 大阪間の距離です。また仙
台の司祭が青森県・八戸の管理
牧師を務めています。その距
離も約三〇〇キロ距離だけで言
えば東京の教役者が名古屋の管

理牧師をされることも可能と思
えてきます。
一方、現在受聖餐者数だけで
言えば、東北教区は約八〇〇。東
京の大教会二つ、三つ分で、東北
教区全体を三、四人の教役者で

牧会したらよいことにもなうて
きます。

以上は一例ですが、過疎と過
密、アンバランスの問題は社会的
で、持っている人はさらに与え
られて豊かになるが、持っていな
い人は持っているものまでも取
り上げられる状態はますます
進みそうです。お金人、そして
情報。一方、これだけ多くの文
字・映像情報が流されても、も
ととの関係が成立していな
いとなかなか生きて情報、声とし
ては届きにくいようです。です
から、集まることはとても大事
なのですが、ここでも例えば東
北教区で二つ会合を開くには東
京の数十倍の経費がかかるとい
うジレンマに悩まされます。

そうした物理的諸条件を乗
り越えて、教会全体が響きあ
い、言葉と意思が通じて共感の
ネットワークが生まれてくるこ
とが可能なのか、貴・教区時報
もそうしたチャレンジの中で奮
闘してこられたのだと思いま
す。「コミュニケーションから「ミニ
オンへ」というタイトルに祈りを
込めて。

(東北教区主教)

月刊週刊…あの頃あの頃

一〇〇号の頃の時報制作

司祭 佐藤信康

私が編集していたのはちょうど一〇〇号になる一九六二年一月からで、翌六三年9月までの一年半余りで、40年以上も昔のこと…。

当時の教区体制では編集は文書部が当たっていたのですが、それがたしか教務部へ変わって私の編集時代に変わったように覚えていますが。部長の私1人が部長だったと思いつくくらいで、企画や編集など1人で取り組んだような記憶が強く、いずれにしてもそのようなことがまかり通っていた時代の編集で、いまでは想像もできないことです。それまで長年、編集にたずさわっていた前任の堀江清司祭の手伝いをしていた関係で後任にされたような記憶があり、私も30代前半と若かったので多分、張り切つてその任に就いたのだらうと思えます。しかししかに張り切ろうが毎月1人で紙面の構想を考え執筆

者に交渉して原稿を集め、時にはアキを埋めながら編集するといふ作業は相当の苦勞を強いるものだったはずで。

月刊、B5判4頁建てが標準でした。原稿の集まりが予定通りいかないことは度々。集まると印刷所に運び込み、活版印刷の時代でしたからグラ刷が出るのを待ち、校正をして責了、校了にこぎつけて帰宅…。納品の知らせが届くと教区事務所へ駆けつけ各教会へ発送…。毎月その繰り返しでした。印刷所での印刷機の音やインクの匂いはいまでも鮮明に残っています。鉛の活字の感触も忘れられません。いまではとても考えられない往時の苦勞が、懐かしさとともに思い起されて参ります。

(退職東京聖マルチン教会囑託)

「氣負いすぎて

司祭 関 正勝

「東京教区時報」が通算一〇〇〇

号を迎えるとのこと、お目出度うでございます。

この機会に長い誌歴を振り返る企画が立てられて、わたしにも何か一言と。促されて自分が編集に携わっていた70・71年(一八二号～二〇二号)の頃を思い起こそうとするのですが記憶は確かではありません。あの頃は確かに日本中が激しく揺れ動いていた時代でした。渋谷聖ニコル教会の牧師時代でその頃の時報は1カ月に一度の発行で内容はユース性に富んだものであるよりは、編集者たちの主張の強い記事が多く掲載されていたように思います。論壇などといったコラムがあつて教会が直面している、あるいは向かい合うべきと考えられる事柄や課題が相当自由に論じられ議論が展開されていたように思い起こします。「危機を危機と感じない」教会の「危機」といった挑戦的で氣負つた文章も掲げられたこともありました。

時代が今と同様政治的でした。そして今と違つたのは教会には活動的な若者が一杯でした。聖餐式の中で代祷をすれば必ずしもや集会のアピールがなされ、牧師の説教には次週にその批判がガリ版刷りで

配られるといった落ち着かないそれでいて何か新しい変革が期待出来るような時代の教区時報でした。そして教区時報はいつも時代や若者への迎合だ、政治的で信仰的でないとの批判が投げかけられました。今振り返ると氣負いと自己主張の目立つ編集だったと赤面したくなります。一人の先輩司祭が毎号丁寧に読んでアキを入れて校正して指導して下さいたことが忘れられませんが、そして今は亡き大木弘行司祭が、古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた」と、聖パウロの言葉を掲げて編集長を継いで下さつたのでした。

今のパフスの採れ、要を得た教区時報の編集者のお仕事に感謝を込めて。

(聖公会神学院校長)

「警沢過ぎた昔?」

司祭 澤 邦介

いま、協働作業を共に楽しんで仲間たちの顔を思い浮かべている。すでに故人となつた人もいるが、いまだに現役として教区で活動なさつている人もおられる。

みなそれぞれの教会で広報の仕事に苦勞されていた人物ばかり。各人の経験が結集されて見事なチーム・ワークだったと思う。みんな読者の視点に立つて文章を書こう。これが申し合わせたであつた。

中には素人放れの技術をもつた者もあり、実際に出版社勤務のプロもいた。だから互いに啓発されることばかり。年に二回の一泊研修旅行は最高の学習チャンスであつた。

共通の悩みは教区時報が月刊であつたこと。歴史資料として残す記録性はとにかく報道ユース性を生かすためには月刊では大いに制限される。現在の教区時報をウィークリーに切り換えた英断は敬服に値する。

しかし、写真のもつ報道性と記録性は月刊なればこそ有利。その点なかなか高級なカメラ技術をもつたメンバーがいて、いまだに物を言っている。苦勞しても顔写真は載せよう、が一つの狙いであつたことを覚えていて。

その点限られた時間と費用を要する今の週刊教区時報の隘路と苦勞が分かる。むしろ手間ひまかけて造つた昔の教区時報は、反って贅沢過ぎたのかも知れない。

その意味で、新聞のように手軽に読まれたか、かすかな疑問が残っている。

(退職ナザレ修女会囑託)

編集に魅されて

伊藤裕元

編集人として通算8年余り。一九九三年からの2年、一九九八年からの5年余り、そして現在と、間歇的に3代、名を連ねていることに。澤司祭、塩田、岩前司祭、小野、英各位の5代にわたる編集人のもとにあつて編集

にかかわつた年数は、恐らくその倍になる。さらに明かせば、40数年前、第3代編集人堀江司祭時代に3年ほど、NCC関連事業部に在籍し編集業務にかかわつていた身分で委員になつていた経緯もある。通算では20年を越すかわり、よくいえば編集一筋と言えなくもないが、後進に道を開かない「偏執人」と言ふことになるであらうか。

澤委員長の時代に開かれた、教会報製作懇談会」といつた会に出席した。じつは懇談会は広報委員会の餌撒きであつて、気付いたら見事、釣りあげられていて座長澤

| 教区時報 創刊号～1000号《編集人》 | | | |
|---------------------|---------|------|---|
| 在任号 [月刊・準月刊時代] | 編集人 | * 逝去 | |
| 1 ~ 22 | 1 今井直道 | 司祭 | * |
| 23 ~ 32 | 2 細貝岩夫 | 司祭 | * |
| 33 ~ 99 | 3 堀江 清 | 司祭 | |
| 100 ~ 115 | 4 佐藤信康 | 司祭 | |
| 116 ~ 150 | 5 白井三繁 | 司祭 | |
| 151 ~ 181 | 6 井原泰男 | 司祭 | * |
| 182 ~ 203 | 7 関 正勝 | 司祭 | * |
| 204 ~ 214 | 8 大木弘行 | 司祭 | * |
| 215 ~ 238 | 9 伊東辰夫 | 司祭 | * |
| 239 ~ 278 | 10 澤 邦介 | 司祭 | * |
| 279 ~ 318 | 11 塩田敏雄 | | * |
| 319 ~ 338 | 12 伊藤裕元 | | |
| 339 ~ 378 | 13 岩前 宏 | 司祭 | |
| 379 ~ 418 | 14 大畑喜道 | 司祭 | |
| [週刊時代] | | | |
| 419 ~ 630 | 15 小野 翠 | | |
| 631 ~ 863 | 16 伊藤裕元 | | |
| 864 ~ 975 | 17 英 久子 | | |
| 976 ~ | 18 伊藤裕元 | | |

の一家に迎えられていた。その時すでに塩田さんがご意見番としておられて、私の割付スキルを罵つてくださった。澤座長は編集猛者(もさ)どもの個を束ねながら高座にのぼりつつけた。塩田委員長は個を自由に泳がせながら要所を押さえて紙面をつくり、常に論点の在りどころを見据えていた。澤委員長からは用箋の二マスを埋める一字の、塩田委員長からは一行のフリーズのそしてワンフリーズでは済まない視点の、それぞれの思いを教えられた。

編集に身を入れるにつれて教区の姿も見え始め、時報が身近になり、一文の発信力に気付けられていた。時折、回ってくる頁モノ、取材記事には、誰もが、おのずと力が入った。

勤務地の移転に伴い岩前司祭にバトンタッチし、やがて委員をも辞した。その後、何年か経た小野委員長時代。夜、職場を出て乗り換える新宿で地下鉄を降りた途端、ホームで待ち伏せしていたかの某広報聖職委員に3度もつかまつた。それも1ヶ月ぐらいの間に立て続けに。街頭スカウト並みの口説きにあい委員復帰

することになった、機縁とも言える出会い…。その前も後も一度もなかった邂逅…。それをどう呼んだらよいのだろうと今でも思う。

月刊から週刊への変遷は、東京教区でこそその成すべくして成した変革ではあった。その渦中にはいなかったのだが、両者それぞれの紙面特性にかかわられて編集人冥利につきる。しかし、情報の速報性と学習・記録性との整合は、いまだ果たし得ないでいる課題である。

手書きで挑戦 広報一家

司祭 岩前 宏

立教文學院チャプレン時代、先生は教会色が薄いから」との塩田敏雄広報委員長の招き。言葉に抵抗はあったが通称塩田一家の一員に加えられ、以後伊藤藤裕元次期委員長長の薫陶を受け、今でいう談合により委員長に就任した。

毎年、年初第一回の委員会は「教区時報」であって「事報」ではないとの確認事項に始まり、年間テーマシリーズの骨子を決定する。不動の委員10人談論風発の

末採用したのが、年長者からのメッセージ、若者よ(85年)タレントを生かしての奉仕(うつわ)86年、対談記事、共創(87年)教会相互理解、みんなの教会、わたしの教会(88年)として連載された(写真入り)。全委員が取材分担し署名記事とした。

当時は印刷事情に変化が現れ、新し物好きが発売早々の東芝ルボを購入しワープロに挑戦したが、容量不足、変換に手間取り(主教首狂)、結局は従来通り手書き、本文活字は活版で見出しは写植文字を採用した。

新聞用語辞典、写植見本集を座右にし、一字のはみ出しも許されず、加筆訂正、文章全体の書き直し全て手作業で行った。文字指定を終え割付表に収めるには時間を要したが、編集技術を発揮する機会となる。

教区体制を見直すためのパンフレット、しんせいを編集発行したのもこの時期であった。

毎年6月末に行う研修と称する箱根や熱海での合宿は広報一家の絆を深め、さらなる広報活動への源泉となった。

(退職・八王子復活教会嘱託)

月刊、PC時代へ

司祭 大畑喜道

神学院卒業後から20年にわたって教区時報の奉仕をさせて頂きました。当時はまだ和文タイプの時代、編集も割付用紙に原稿の行数を数えながらの手作業、校正も誤字のみならず文章を変更するにも字数を気にしながら…。原稿量が不足するとその穴埋めに四苦八苦。89年から四年、委員長として毎号、「責了」と書いて印刷屋に出すたびにほっとしたものです。

PCの目覚ましい発展は時報の編集にも大きな転換を余儀なくされました。頭の切り替えを行わないうついていけなくなりました。90年頃はPCが何処にもあるという訳ではなく、藤井司祭と時間貸しのPCを駆使して苦労しました。ディスクを持ち歩いての編集でした。写真の上がりが悪く、校正も時間切れとなったりでミスも多く、過渡期はお叱りの声もたくさん頂きました。92年、各教会の情報誌が月報では追いつかないという問題が生じました。報告ではなくホットなニュースを伝えたい。その

ためにはどうしたら良いのか悩みました。情報誌が盛んに出される時代となっていましたので、今までの枠組みを取り払って大英断を行おう。月刊から週刊へ、大きさもポケットに入るような小さな物に、紙面の都合上、学びのページは大幅にカットされることとなるけれど、もそれは特集号などを作ることで補えば良い。若気のいたり大英断に進む方向性だけ決めました。後は小野委員長に引き継いでしまいました。随分と苦労も迷惑もかけたように思います。

(聖アンデレ教会)

あの頃のこと

小野 翠

ワープロのお手伝いと言ったことで広報委員会に、いつも会合で皆の話が纏まりかけると決まっていた塩田敏雄さんが「でもね」と棹を差される。面倒な人だなーと思った。でもそれが塩田さんのジャーナリスト根性、他の視点で考えなければならぬ事に気付かないで事を決めようとしていないか。だから僕は必ず言つたんだよ。大畑喜道司祭

の跡を何も分らないまま継いで「テキ」トロンでね誰が誰に何を、何のために伝えるのか考えてね」と塩田さんの猛特訓を受けた。特に教区会の報告号は内容のため押しは勿論、グラに朱を入れてファックスが何回も往復した。あの頃の教区会にはどんな方向に行くのだろうと関心の持てる議題と議論があつたし、それを間違ひなく伝えなければという責任感が自ずと湧かされるものがあつた。本当に丁寧な仕事に教えられ、また、東京教区には官報ではない広報だから編集人は主教ではない」といつとも身にしみて感じた。

そんな中で月刊では、何せ計画立案の遅い教会行事の振返りの報告は出来ても、前向きのお誘い、お知らせができないという議論が起きた。でも週刊等はとても無理だろうというおおかたの思いを押し、週刊HPを目標して、「進めたいのは藤井慶一司祭あつてのこと。振返りは特集号で、前に必要な情報を大切にしたいそんな思いの結集であつた。月刊と週刊では内容も原稿の集め易さ、難さも違う。でもやってみよう」と慌たたくも果敢に取組んだB6週刊であつた。

委員長・編集責任者体制で…

英 久子

03年3月の教区会で、伊藤委員長が常置委員に選出されたため急にその後任を務めることになりました。編集は素人、編集の当番日に出向くだけの委員でしたが、これまで通りの読み易い紙面構成で、時報の発行を続けたいと考えました。委員会の了承を得て、前委員長に編集責任者をお願いし、委員長・編集制作責任者体制で、

進めることにしました。

エルサレム教区との交流が始まり、賛否両論が繰り広げられる中、時報では学びのための記事などを掲載し、理解を深めました。また、同教区からリア主教、「一行をお迎えした、教区フェスティバル前後にも、関連記事が見受けられます。教区で何が企画され、行われようとしているか、各委員会の動向、また教会グループや各教会、礼拝堂、さらに諸団体などからの発信を正確・迅速に伝える、身近にある週報」の発行を心がけました。

巻頭頁や、「ヨラム」今、この教会では、「…」などに「寄稿くださる方々の協力に、感謝いたします。構成メンバーの多い委員会ですが、互いの個性と協調性に支えられたくさんの出会いとかかわりに恵まれる機会であつたといま、深く感じています。

一〇〇〇号記念特別号を手にしたとき、任期半ばで退かれた前委員長に復帰をお願いしたことは、間違ひしていなかつたと喜べることを確信しています。

主に感謝！

教区時報は東京教区のホームページにも毎号掲載されています。また順次バックナンバーもご覧いただけるよう内容の充実がはかられています。2000年1月16日「第718号から収載」。

このホームページには昨年は年間延17万人(日本聖公会HP全体では約88万人)のアクセスがあり、年々の利用者は増加の傾向にあるようです。

かつてランパス会議によつて福音

教区HPの時報

司祭 下条裕章

伝道の10年の決議がなされ、東京教区で宣教方針の策定が進められていたころ、時を同じくしてインターネットの活用をとの意見がこちらから聞こえるようになり、またある篤志家の申し出によつて、教区としてのインターネットの活用、ことにHP開設の動きは大きく

一步を踏み出すことになりました。当時の宣教委員会のもとに、宣教、教財務サービス広報の三委員会選出のメンバーによる

ワーキンググループが立てられ、またコンテンツの執筆、ページデザイン、インターネットに関する情報や技術を持ちまた関心のある人々が加わつて、開設に向けた準備が進められました。

1998年にHPがオープンし、教区時報にもそのアドレスが刷り込まれるようになり、また試験的に始められたメール、リストでの配信も続けられ、現在も約3百人の登録利用があります。

読者の声・感想・意見： 読者アンケートから

千号の重み

塩田純子

思いがけないこの度のご依頼に、何故私が一瞬たじろぎました。けれども、学生時代から新聞作り大好き人間だった末、敏雄が、元気にしていた頃の広報委員時代のあれこれを、久しぶりに思い出す時が与えられました。植字による外注印刷のかたわら、自宅ワープロ編集をじだした時代で、印字だけでなく割り付けが楽になつたなどとよく口にしていたものです。

一〇〇〇号に至るまで「時報」を支えてこられた多くの方がたの思いと、発行までの様々な作業が、途切れることなく続けられていることの重さ、その奉仕を励ましくお導き下さっている方への深い感謝を噛みしめております。

現在のB6判・週刊になつたことで、ユーモア性が高まり手に取りやすく読み切れるなどのほか、巻頭頁は聖職・信徒方の信仰を生きる多様な思いを、共に味わわ

せて頂き楽しみます。欲を言えれば、時には目に訴える写真頁が挿まれたりしたら、など、外野のつぶやきをさせて頂きます。

相反する希望

岡野 峻

「東京教区時報」が通算一〇〇〇号を迎えた。この種の発行物で一〇〇〇号というのは尋常の数字ではない。現在の週刊発行で年間50号と単純に計算したとしても20年かかるが、月刊発行の時代と合わせて実に57年に達すること、これに携わられてきた歴代の編集委員の方々に心からの敬意と感謝を申し上げたい。

私が東京教区に転籍したのは45年前だから、すでに教区時報は発行されていたはずだが、当時の記憶は鮮明ではない。その後教区の委員会や活動に加わるようになって、時報に掲載された記事への関心が深まり、毎号ファイルして保存するようになった。これは後

年教区で資料保全委員の方々が時報のバックナンバーを揃える際に提供して多少のお役に立てたと思う。私が教区事務所勤務していた当時、広報委員の方々と毎週お会いし、遅くまで編集作業をされる。苦勞を身近に見ながら、校正などお手伝いをしたことが思い返される。週刊の発行は原稿集めや編集さらに発送作業にいたる

まで毎日が時間との戦いであることを見て頭が下がる思いであった。一〇〇〇号は通過点であるが一つの節目でもある。これを機に今後どのように時報を方向付けていかれるか、読者としても関心があるところである。課題は速報性と記録性をどう両立させていくのかというところ。またもうた報告や意見発表や写真入りの記事など、速報性になじまない相反する要求にどう応えていくか、あるいは整合させていくのかということ。難題であるが、お考えいただければと願う。

読者アンケート「声」

- 投書数10
- 投書者：教区内聖職2 同信徒6 海外在聖職1
- 同信徒1
- 内容：傾向：紙面・編集・制作に関するもの7 特定情報の掲載および資料提供を要請するもの1 巻頭頁への投稿的なもの1 広報委員会への要望1 掲載：紙面づくりに関する投書7通 投稿の一部を趣意見部分に触れないよう考慮して割愛・所属教会名記載省略・順不同

教区時報ナント一〇〇〇号！ 携わる方々のご苦勞をお察ししつつ感謝を込めて、おめでとうございます！ 一週間ごと手取り早く教区を見回すのに、私にとって無くてはならない情

以前、月報であつた教区時報

がタイムリーさを求められて週報になり、広報」担当の皆様のご苦勞は並々ならぬものであると、感心して拝読しています。しかも、あの小さいスペースに毎週、盛り沢山の記事。それがほどなく一〇〇〇号になるとのこと、喜ばしい限りです。将来という観点から希望を言えば、紙のサイズを2倍位にしてください、文字サイズが大きくないと老齡化が進む私などにも大助かりです。また写真やカットなども用紙が大きくなるに入り易くなるはずで、さらに親しみやすいページになると考えます。

(岩浅紀久)

手に入ってしまうほど小さな

「読者アンケート」に

「協力ください」

「一〇〇〇号を迎えるに際して教区時報に対する読者アンケート」を試みた。結果は投書10通、8頁下欄参照。多謝である。本紙に対する感想や意見に徹しているのは、7通で、記念号に対する祝意を込めてのお気持ちもあったのではと受け止めている。内容的には重複が

時報ですが、中身はぎつしりで、休刊だと寂しくて…。日曜の朝はまず時報を読み紹介されている方々やお働きに思いを寄せます。そして私たちは「ひとり」ではなく、あちらこちらの方々の教会の方々と同じ信仰をもち、宣教の働きを共にしているのだと、励まされる思いです。個人的には、ランチタイムコンサートや九条の会など各教会や個人の小さな動きに目を留めて、それを教区という視野でまとめて掲載してくださっていることがどれほどの励みになっているか…。本当に感謝しています。要望と言つほどのものでもありませんが、若い人たちの声」が聞こえるといいな…。どこかの教会や個人が何らかの援助

や助けを必要としていることがあれば、どんどん掲載して欲しい。そういう声をあげられる環境作りも必要かもしれません。信徒さんの小さな小さな活動などなかなか注目されない。しかし、尊い宣教の働きなどが紹介されるといいかも。ただ読んで「ふん」と済ませるのではなく、読者それぞれつまり教区の信徒ひとりひとりが他人に目を向け、自分のように愛し、隣人となり、「具体的に」自分でできることを見つけ、行動し、教区全体の宣教の働きに関わっていただけるようなチャンス作りの場を提供していただきたいとも…。なんて、言つのは簡単ですが大変なことですよ。しかし、広報といつのはそのくらいの力がある

見られるものの、投書の一部、実質かわりのない箇所を割愛しながら、また掲載する旨をお断りしながら、全通を読者の「声」として載せることにした。ただ集計する場合、内容を分析して傾向など整理するものであるが、分析するまでもない内容、全通掲載などの事由からコメントを付さないことにした。本紙への祝意と提言を、今後の

時報づくりへ向けて資したいと願っている。

他の3通については、それぞれの趣旨は別々で、一括してここでコメントはできない。内、2通は海外からいち早く寄せられた長文の投書で、NSKKメンバーングリストで配信され、教区HPで掲載されている本紙の読者からの便りであった。

広報委員会

と思いますし、実際今の教区時報はそれだけのパワーをお持ちだと…。

(楡原民佳)

今の教区時報のサイズが気に入っています。毎週発行されるのもありがたく、その小さい紙面に教区の「今」が凝縮されていて、それも分かります。読ませていただいています。自然に最後まで目を通します。この手軽さはとても貴重です。

(林 昭子)

昔の広報委員として…。時報が一〇〇〇号を迎えるという聞いて、継続は…。と思いましたが、広報委員会の働きに敬意を表したいと思えます。私が最初に教区時報のお手伝いしたのは、関正勝司祭が編集長時代。今から35年前…。それから塩田敏雄さんと伊藤裕元さんの頃でした。記事を書いては書き直し、写真を撮っては撮り直し…。教会の姿を素のままに伝えたいという願いがありました。スタイルが思い切つて変わったのは良いと思います。が、カラー化したり、写真を取り入れる要素があっても良いのではないかと…。もう一つに「マジ

タルな時代なのですから。

(司祭 前田良彦)

まったく切れ目なく続くブ
レッシュャーのなかでの「奉仕だけ
とつても、敬意を表さざるを得
ません。内容的にも限られた紙
面にあつて硬軟・巻頭を「軟」とも
いえないが)さまざまなるハラス

周年行事と記念グッズ

…日本聖公会宣教百年(一九
五九年)、教区宣教百年、教区成立五
十周年(一九七二年)、日本聖公会組
織成立百年(一九八七年)などの
周年行事にはいつの時代も教区を
挙げて「伝道・宣教」の機会として取
組んでいたことがわかる。以後、教区
成立六十周年記念礼拝催事が記録さ
れているだけで、七十年、八十年とも
特記すべきものはなかった。

…五十年記念事業のひとつと
して発行された「教区五十年のあゆ
み」は、五十年概史を収めていて、史資
料になった。年表と一緒に全教会・礼
拝堂の写真、創立年、所在地が載り、
屏風畳みに折り込まれている。縦13
センチにも満たない小判手帳版第
224号)。もう一つの記念グッズに

もあり、いいのではないでしょ
うか。時にはおもしろい文章を書
く人の投書などあると息抜きに
なりますね。(松田正人)

「このような形で、の教区時報
は東京だけで、週刊であること
で常に新しい情報を掲載して頂
いていることは大変、有り難く、

「五十年」を染め抜いたブルー色のパ
スタール(八百円)があつた。また、「記
念スタール」(二百円)も、各三千枚個

…「東京教区へんり帳」とい
う手帳も発行された。一九七八年、第
271号「広報委員会」手書きマッ
プ入り教会案内ながら、教会委員の
ほか、代議員、婦人会役員、サーバ
ー、オガスト、日曜学校教師、教会報
担当者…の名前まで載っている。巻
末には「信徒名簿」欄まであつて家
族、子どもたちの名前もギッシリと
住所・電話番号ともども収められて
いる。往時にあつてはまさに「便利」
だったのである。

…教区成立60周年(一九八三
年)には、「礼拝/集会ガイド」東京
と周辺の聖公会」が新書ブイド版並
みの大きさで…。これも発行者名は
「東京教区」。

良い点だと思えます。その反面、
他教区の時報に見られるよう
な、さまざまなる研修会や催しな
どの内容を、終了後に紹介する
紙面の余裕はありません。東京
では催しなども多く内容を全部
紹介したら大変なことになると
思いますが、当日出席できない
方々のために、プログラムの日時

が重複することもありますし、
何らかの形で、教区レベルで紹介
頂けないかと…。会に出なければ
本当のことは分かりませんが、
少しでも分かち合いたいと思
います。ご一考頂ければ幸い
です。(斎藤響子)



「礼拝集会ガイド」から(1983年)

《教区フェスティバル》テーマ 一覧

「教区フェスティバル」と改称後の年度別テーマ

(除 テーマ前後の「教区フェスティバル〇〇年」)

| | |
|-------|-----------------------------------------|
| 1976年 | 担ごう おおミコシ」 |
| 1977年 | みんなで楽しく |
| 1978年 | 祈りの「わ」をひろげよう |
| 1979年 | 教区フェスティバル79 |
| 1980年 | 見出そう新しい世界にふれあう私たち |
| 1981年 | 栄光を神に～ともに立ち上がろう |
| 1982年 | ここにわたくしがあります。わたくしをおつかわしてください。 - 連帯と協働 - |
| 1983年 | みたまの一致 ~教区内の協働~ |
| 1984年 | いざ我ら出でゆかん - 仕える人となり、僕となり - |
| 1985年 | ほら、神様がみえるでしょう? |
| 1986年 | 福音に生きる「百年」へ |
| 1987年 | 教区フェスティバル87 |
| 1988年 | 東アジアに視点を向けて |
| 1989年 | 隣り人の再発見 |
| 1990年 | 福音伝道の十年に向けて |
| 1991年 | 「立て さあ行こう」と主は言われた |
| 1992年 | 出会いと和解の祭り |
| 1993年 | あなたがたなくフェスティバル みんなできてね! |
| 1994年 | ともだちといっしょに |
| 1995年 | みつけにきてね |
| 1996年 | ひろがれ、わたしたち |
| 1997年 | み～んな家族 - わかちあおう イエス様の食卓から - |
| 1998年 | 与ろうイエスのいのち - 古いも若きも - |
| 1999年 | 想い起こそう 主の 呼びかけに応えて |
| 2000年 | この恵みをしっかりおぼえて |
| 2001年 | 集おう 出会おう 楽しもう |
| 2002年 | 2002人の大礼拝 |
| 2003年 | 「主の平和」って... |
| 2004年 | 平和をつくりだす人は幸い～パレスチナの人々と共に～ |
| 2005年 | みんなで祝おう! ~ともだちになるために~ |
| 2006年 | つくろう ひろげよう 和と(わ) |



福音伝道十年マーク

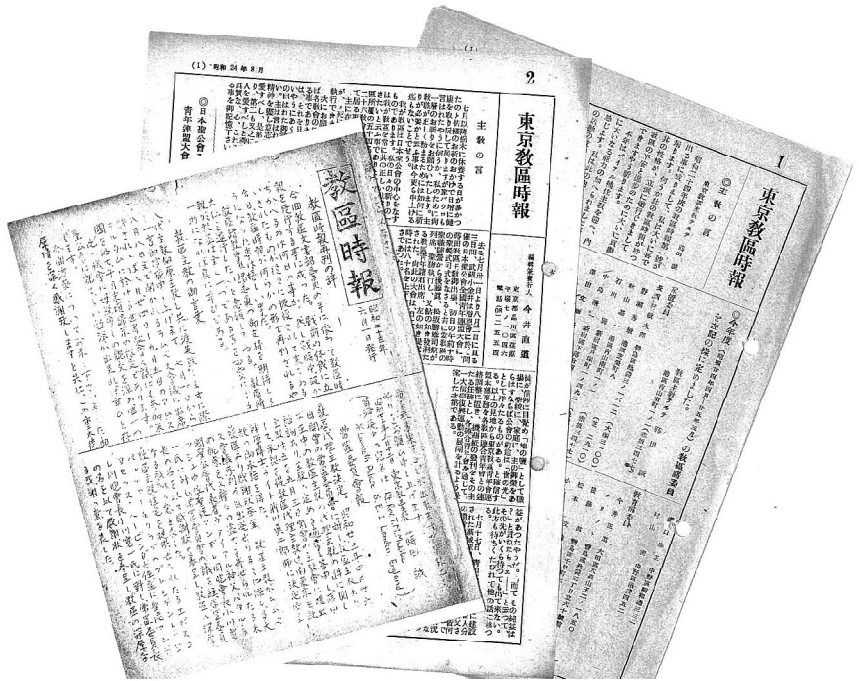


コンパスローズ

復刊第1号(1948年7月)：右側

復刊第2号(1948年8月)：中央

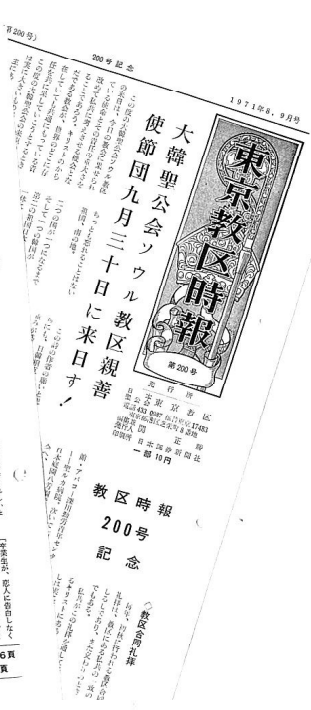
教区時報復刊準備号(1948年6月)：左側



第50号(1955年)
第100号(1962年)



第300号(1981年)



第200号(1971年)



401号(1991年)



400号(1991年)

東京教区時報

日本キリスト教団東京教区発行
 〒105 東京都港区芝4-4-13 6-18
 東京教区時報編集部
 FAX(03)3433-8678
 編集人 大塚真道

月刊最終号(1992年)

HOLY FAMILY



「ダビデの子ヨセフ、マリアを迎え入れ」
 主教 ヨハネ

東京教区時報

12月の信施奉献先
 「東京障害者を考える会」

このため、他とともに心のゆわゆるすのたのめを、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。

12月の信施奉献先「東京障害者を考える会」

このため、他とともに心のゆわゆるすのたのめを、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。

聖家族

「ダビデの子ヨセフ、マリアを迎え入れ」
 主教 ヨハネ

12月の信施奉献先
 「東京障害者を考える会」

このため、他とともに心のゆわゆるすのたのめを、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。

12月の信施奉献先
 「東京障害者を考える会」

このため、他とともに心のゆわゆるすのたのめを、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。

12月の信施奉献先
 「東京障害者を考える会」

このため、他とともに心のゆわゆるすのたのめを、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。

12月の信施奉献先
 「東京障害者を考える会」

このため、他とともに心のゆわゆるすのたのめを、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。

12月の信施奉献先
 「東京障害者を考える会」

このため、他とともに心のゆわゆるすのたのめを、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。

12月の信施奉献先
 「東京障害者を考える会」

このため、他とともに心のゆわゆるすのたのめを、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。

12月の信施奉献先
 「東京障害者を考える会」

このため、他とともに心のゆわゆるすのたのめを、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。このため、わが心で支えたい。



教区フェスティバル第1回フォトコンテスト紙上発表(1983年)

東京教区時報 (特集号) 2003年7月20日

東京教区時報

2003年7月20日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 英久子

東京教区フェスティバル 9月15日(月・休) 10:30~

会場 / 立教女学院



「主の平和」って…

今年も今年も東京教区フェスティバルの開催が決定しました。今年も立教女学院を会場として、9月15日(月・休) 10:30~12:30の間に開催されます。今年も「主の平和」をテーマとして、平和の象徴である鳩と手を描いたロゴが採用されています。このロゴは、主の平和を祈るというメッセージを込められています。今年も多くの皆様にご参加いただき、主の平和を共に祈りたいと思います。

今年も今年も東京教区フェスティバルの開催が決定しました。今年も立教女学院を会場として、9月15日(月・休) 10:30~12:30の間に開催されます。今年も「主の平和」をテーマとして、平和の象徴である鳩と手を描いたロゴが採用されています。このロゴは、主の平和を祈るというメッセージを込められています。今年も多くの皆様にご参加いただき、主の平和を共に祈りたいと思います。

2003年教区フェスティバル

特別号 = 教区フェスティバル案内

ミレニアム・ノヴェナ
特別号(第761号)



特別号「教区フェスティバル」リアア主教演説

2000年12月17日(第761号-付録)

2000年12月17日(第761号-付録)



MILLENNIUM NOVENA 9日間の礼拝

12. 20(日) 7:00p.m. 私たちの心を開いてください
聖アナクレタ主教演説 - Tel. 03-3433-0282

12. 28(日) 7:00p.m. 神を愛する心で祈る神 - カトリック信託局
電話予約 - Tel. 03-3433-0282

12. 29(日) 7:00p.m. 神の愛を打ち砕かれた主 - 人権委員会
電話予約 - Tel. 03-3433-0282

12. 30(日) 7:00p.m. 人に命を与えられた神 - 福音堂(FCJ)カトリック
電話予約 - Tel. 03-3433-0282

12. 31(日) 11:30p.m. 平和の主に従う者たち
聖アナクレタ主教演説

1. 30(日) 7:00p.m. 守る人とならねばならぬ
福音堂(FCJ)カトリック
電話予約 - Tel. 03-3433-0282

1. 31(日) 7:00p.m. すべてを新しくする命の神 - 福音堂(FCJ)カトリック
電話予約 - Tel. 03-3433-0282

1. 5(日) 7:00p.m. アジアの歴史に打ち打ちを
福音堂(FCJ)カトリック
電話予約 - Tel. 03-3433-0282

1. 6(日) 8:00p.m. 主と共に歩む新子(福音堂、福音堂) 日本聖公会東京教区
電話予約 - Tel. 03-3433-0282

「八福」の聖書
「八福」の聖書は、主の平和を祈るというメッセージを込められています。今年も多くの皆様にご参加いただき、主の平和を共に祈りたいと思います。

「八福」の聖書
「八福」の聖書は、主の平和を祈るというメッセージを込められています。今年も多くの皆様にご参加いただき、主の平和を共に祈りたいと思います。

「八福」の聖書
「八福」の聖書は、主の平和を祈るというメッセージを込められています。今年も多くの皆様にご参加いただき、主の平和を共に祈りたいと思います。

「八福」の聖書
「八福」の聖書は、主の平和を祈るというメッセージを込められています。今年も多くの皆様にご参加いただき、主の平和を共に祈りたいと思います。

「八福」の聖書
「八福」の聖書は、主の平和を祈るというメッセージを込められています。今年も多くの皆様にご参加いただき、主の平和を共に祈りたいと思います。

「八福」の聖書
「八福」の聖書は、主の平和を祈るというメッセージを込められています。今年も多くの皆様にご参加いただき、主の平和を共に祈りたいと思います。

「八福」の聖書
「八福」の聖書は、主の平和を祈るというメッセージを込められています。今年も多くの皆様にご参加いただき、主の平和を共に祈りたいと思います。

タイトル地紋の変遷

第900号・第934号(11頁マーク参照)

東京教区時報

第934号
2005年1月30日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 英久子

WEB: <http://www.nsk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tok@nsk.org
Phone: 03-3433-0287 Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

「八福」の聖書
「八福」の聖書は、主の平和を祈るというメッセージを込められています。今年も多くの皆様にご参加いただき、主の平和を共に祈りたいと思います。

「八福」の聖書
「八福」の聖書は、主の平和を祈るというメッセージを込められています。今年も多くの皆様にご参加いただき、主の平和を共に祈りたいと思います。

東京教区時報

第900号
2004年3月28日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 英久子

WEB: <http://www.nsk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tok@nsk.org
Phone: 03-3433-0287 Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

「八福」の聖書
「八福」の聖書は、主の平和を祈るというメッセージを込められています。今年も多くの皆様にご参加いただき、主の平和を共に祈りたいと思います。

「八福」の聖書
「八福」の聖書は、主の平和を祈るというメッセージを込められています。今年も多くの皆様にご参加いただき、主の平和を共に祈りたいと思います。

教区会計予算・分担金の変遷一覽

| 年度 | 予算(千円) | 分担金(千円) |
|------|--------|---------|
| 1948 | 155 | 100 |
| 1949 | 360 | 200 |
| 1950 | 371 | 250 |
| 1951 | 700 | 400 |
| 1952 | 835 | 600 |
| 1953 | 953 | 690 |
| 1954 | 1,200 | 800 |
| 1955 | 1,880 | 760 |
| 1956 | 1,800 | 1,126 |
| 1957 | 2,300 | 1,438 |
| 1958 | 2,300 | 1,600 |
| 1959 | 2,550 | 1,760 |
| 1960 | 2,800 | 2,000 |
| 1961 | 2,820 | 2,000 |
| 1962 | 3,030 | 2,200 |
| 1963 | 4,875 | 2,420 |
| 1964 | 5,440 | 2,662 |
| 1965 | 7,000 | 3,000 |
| 1966 | 8,000 | 3,300 |
| 1967 | 10,600 | 4,125 |
| 1968 | 10,600 | 4,125 |
| 1969 | 11,897 | 4,021 |
| 1970 | 13,300 | 6,540 |
| 1971 | 15,700 | 7,848 |
| 1972 | 16,900 | 8,632 |
| 1973 | 20,000 | 9,495 |
| 1974 | 25,800 | 10,225 |
| 1975 | 38,000 | 12,782 |
| 1976 | 54,000 | 15,980 |
| 1977 | 62,000 | 19,180 |

| 年度 | 予算(千円) | 分担金(千円) |
|------|---------|---------|
| 1978 | 61,120 | 22,500 |
| 1979 | 67,070 | 27,000 |
| 1980 | 61,600 | 29,700 |
| 1981 | 65,050 | 32,500 |
| 1982 | 72,650 | 35,300 |
| 1983 | 73,680 | 40,000 |
| 1984 | 74,100 | 42,000 |
| 1985 | 77,070 | 43,500 |
| 1986 | 80,300 | 45,000 |
| 1987 | 89,000 | 48,600 |
| 1988 | 90,000 | 51,000 |
| 1989 | 239,000 | 201,360 |
| 1990 | 240,090 | 207,615 |
| 1991 | 246,580 | 211,734 |
| 1992 | 272,650 | 235,374 |
| 1993 | 262,510 | 229,485 |
| 1994 | 285,150 | 229,100 |
| 1995 | 296,080 | 246,970 |
| 1996 | 297,090 | 249,630 |
| 1997 | 351,910 | 266,100 |
| 1998 | 367,170 | 266,000 |
| 1999 | 356,000 | 279,020 |
| 2000 | 337,530 | 279,030 |
| 2001 | 333,400 | 282,660 |
| 2002 | 321,130 | 277,210 |
| 2003 | 311,190 | 277,590 |
| 2004 | 272,036 | 264,516 |
| 2005 | 278,030 | 271,118 |
| 2006 | 287,999 | 271,102 |

長寿シリーズコラム

(2年・20回以上にわたったシリーズ読みもの / 年代順)

ジュニア向け頁(聖書クイズ欄から聖人紹介まで幅広く...)

23号～45号(1953年2月～1954年12月)

紙上プルピット(聖職による紙上説教)

34号～55号(1954年2月～1955年11月)

鐵神父随想欄(竹田鐵三司祭)

157号～181号(1967年8月～1968年12月)

論説(広報委員会による提言・時評など)

233号～277号(1974年7月～1978年11月)

教会探訪(編集委員による取材記事)

234号～277号(1974年8月～1978年11月)

教会報読み歩き(各種教会報から記事抜粋紹介)

239号～317号(1975年2月～1982年11月)

聖句随想(教役者による寄稿)

259号～317号(1977年2月～1982年11月)

教会だよ(教会からの短信寄稿)

259号～397号(1977年2月～1990年11月)

視聴覚 = 教会めぐりコラム(編集委員による取材記事)

279号～308号(1979年2月～1981年12月)

拝見・教会の看板(編集委員による教会看板の写真紹介)

290号～330号(1980年3月～1984年3月)

味自慢(各教会のランチメニュー紹介)

319号～348号(1983年1月～1985年12月)

祭壇のある風景(編集委員による教会・礼拝堂の写真紹介)

331号～371号(1984年4月～1988年4月)

声(読者投書欄)

339号～368号(1985年2月～1987年12月)

ロータリー(聖職・信徒による提言欄)

369号～401号(1988年2月～1991年4月)

巻頭随想(竹田眞主教1)

378号～398号(1988年12月～1990年12月)

週刊巻頭随想(竹田眞主教2)

419号～462号(1993年1月31日～1993年12月19日)

巻頭随想(教役者持ち回りによる教会暦随想・論壇)

463号～631号(1994年1月30日～1997年12月21日)

今、ミニストリーの現場で(教役者・信徒交互の巻頭随想)

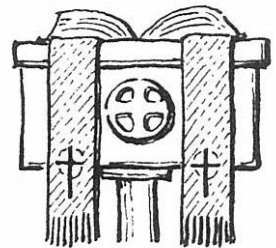
632号～805号(1998年1月18日～2001年12月23日)

祈りとともに...(同上)

806号～889号(2002年1月20日～2003年12月21日)

出会いとかかわりから(同上)

890号～990号(2004年1月18日～2006年4月30日)



| | | | | |
|-----|------|----|------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 960 | | | 9.11 | 戦後60年記念行事の一つ「聖書通読リレー」を6日間6会場で朗読実施、延べ315人参加。 |
| 961 | | | 9.18 | 聖公会神学院で4年間にわたる大改修工事を終え完成記念感謝礼拝を施行。 |
| 962 | | | 9.25 | 教区フェスティバル「みんなで祝おう～ともだちになるために...」開催。参加1300人(内こども300人)、信施72万8千余円、献米200キロ、洗剤300キロ、出店65。 |
| 980 | 2006 | 18 | 2.19 | 新設コラム「学びと働きから」スタート。 |
| 986 | | | 4.2 | 第102定期教区会で「教区の枠を越えた交流取り組み」などを決議。 |
| 991 | | | 5.14 | 巻頭シリーズタイトルが「恵みに生かされて」と改題。第2回エルサレム教区訪日団を迎え諸行事(5月15日～23日)。 |
| 995 | | | 6.11 | 日本聖公会第56定期総会で「日本聖公会聖歌集」が承認され今秋、発刊される運びに。第18代首座主教に植松誠北海道教区主教が就任した(第944号) |

東京教区時報でたどる略年史(最終28頁～19頁)

二つの東京教区時報と発刊の辞

…戦前一九二四年創刊東京教区時報(本紙第一面)コラム参照)に、文献史資料での引用で以下の発刊の辞が残されている。元田作之進監督(初代教区主教)の巻頭稿で、「凡そ如何なる団体にせよ、その団体の強固にして健全なるを企図せんには首部の意志目的が完全に各部に徹底し、各部の抱負希望が遺憾なく首部に伝達し、同時に各部の精神と活動とが洩れなく相互に理解され和衷協同、一心同体となつて生活するにある。内容もかくの如くして始めて充実し、教勢も始めて延長されるものと信じる。茲に東京教区時報を発行するに至つたのはこの原理に基き、団体としての教区を強固健全ならしめんがためである。」と。

…続いて戦後の再刊準備号(本紙第一面)コラム参照)発刊の巻頭ではガリ版文字で、蒔田誠教区主教(第3代)の言葉…。今回、教区文書部委員の手に依つて教区時報を発行する事に成つた。戦前の体制に立ちかへるのは何日の事か。然し戦時中破壊されたものが段々に恢復されて来てゐる今日、教区時報が何らかの形で再刊されるやうになつた事は嬉しい事だ。教区諸教会及び諸委員の御支援を期待して大任を遂行したいと念願してゐる。教区時報が教区は全く一つである事を如実にする一助になれば真に幸ひである。…教区の平安と進歩のために大いに貢献しできるやうに祈る。」



宣教百年碑
(1959年・現在、教区事務所の南側の庭に...)

| | | | | |
|-----|------|----|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 852 | 2003 | 15 | 2.16 | 第1回正義と平和協議会開催(2月、聖バルナバ)、運営委員を推薦、構成員を継続募集。朝祷会30周年感謝記念会(通算617回)を3月に。加藤博道司祭(聖パウロ教会)が次期東北教区主教に選出された(2月同教区会)。常置委員会・信仰と生活委員会・正義と平和協議会の各例会報告を都度、時報掲載へ。世界祈祷日集会(聖公会担当=教区婦人会、3月7日・聖アンデレホール)。 |
| 856 | | | 3.16 | 女性信徒代議員4割へ(広報委員会アンケート)。 |
| 867 | | | 6.15 | 信仰と生活委員会による信徒研修講座(旧約・新約聖書講座、教会の歴史講座、現代の信仰講座)長期シリーズが企画・開催へ、また日曜学校担当者会も。 |
| 877 | | | 9.28 | 教区成立80周年記念を兼ねた教区フェスティバルを開催(「主の平和」って...、9月、立教女学院)。献金のほか米210kg(浅草日曜給食活動)・洗剤150kg(きぼうのいえ)も奉献。 |
| 879 | | | 10.12 | 日曜学校担当者懇談会開催(9月23日、24教会、50余人出席)。 |
| 880 | | | 10.19 | 次期北関東教区主教に選出されていた関正勝司祭(聖公会神学院校長)が受諾を辞退。 |
| 883 | | | 11.9 | 東京教区婦人会が第57(臨時)総会(10月29日)で廃止を決議。東京教区婦人伝道補助会以来80年の歴史に終止符。 |
| 888 | | | 12.14 | 「聖公会生野センターと共に歩む会」発足。 |
| 891 | 2004 | 16 | 1.25 | NGO「カパティラン」、東京弁護士会人権賞を受賞。 |
| 892 | | | 2.1 | 植田主教らエルサレム教区訪問(正義と平和協議会関連=2月3日~13日・12人)。訪問報告記事続く。 |
| 894 | | | 2.15 | 教区婦人会最後の被献日礼拝(2月2日・80余人が出席)。 |
| 903 | | | 4.18 | 信仰と生活委員会子ども部会主催「第1回SS関係者連絡会」開催(4月24日・聖マーガレット教会)。 |
| 904 | | | 4.25 | 「エルサレム教区訪問報告書」刊行。 |
| 913 | | | 7.11 | エルサレム教区来日団(リア主教ら8人)を迎えるための懇談会開催(正義と平和協議会・信仰と生活委員会共催、7月24日)。以後、紙上「エルサレム教区NOW」キャンペーン続く。 |
| 919 | | | 9.26 | 教区フェスティバル「平和をつくりだす人は幸い~パレスチナの人々とともに...」(9月20日・立教大学タッカーホール、説教者リア主教)。午後は恒例バザールに代えてシンポジウムなどを開催。 |
| 928 | | | 11.28 | エルサレム教区協働委員会・教区企画室の新設決議(教区会・11月)。 |
| 934 | 2005 | 17 | 1.30 | 誌名タイトルバックの地紋が「コンパスローズ」に変更、現在に至っている(11頁下のカット)。 |
| 935 | | | 2.6 | 教区資料保全委員会で『東京教区史談会の記録』を発刊、頒布。 |
| 936 | | | 2.13 | 「一粒の麦の会(東京教区)」設立(2月2日)。 |
| 951 | | | 6.5 | 新コラム「今、この教会では...」がスタート。 |
| 957 | | | 7.17 | 第2回エルサレム教区訪問(7月20日~29日・教区主教ら13人)。 |

| | | | | |
|-----|------|----|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 706 | | | 10.3 | 教区フェスティバル(福音伝道十年を振り返り新世紀へ向けて=9月23日・立教小学校)報告。説教者に大韓聖公会釜山教区イ・デヨン主教。 |
| 714 | | | 11.28 | 第87(臨時)教区会(11月20日)で「キリスト降誕2000年「東京大聖書展」協働プロジェクト設置を決める。 |
| 739 | 2000 | 12 | 6.18 | 第3回聖公会・カトリック合同祈禱会開催(6月8日・聖イグナチオ教会・約400人)。共通訳「主の祈り」を初試用。カトリックにとっては「主禱文」口語訳が公用されてほでない時であったが、聖公会では次回総会(2002年)承認までは「試用」扱いであった。 |
| 750 | | | 10.1 | 「東京大聖書展」特集号発行、以後計3回。しばらくキャンペーン掲載づく。 |
| 759 | | | 12.3 | 第90(臨時)教区会(11月23日)で植田仁太郎司祭(アジア学院校長)を次期教区主教に選出。 |
| 760 | | | 12.10 | 年末年始にかけての「ミレニウム・ノヴェナ~千年期~へ向けて9日間の礼拝」を公示(次号では別刷り特別号発行)。 |
| 763 | 2001 | 13 | 1.21 | 新年礼拝(1月6日)で9日間にわたったミレニウム・ノヴェナ関連礼拝を終了。 |
| 770 | | | 3.11 | 教会会計にパソコンを導入する「教会会計システム」試行の改訂説明会開催(2月)。3月末で竹田主教退任。 |
| 774 | | | 4.8 | 植田主教按手式・第8代東京教区主教就任式挙行(3月31日、立教女学院聖マリヤ礼拝堂)。メリーランドプロジェクトの活動を終了(3月、主教按手式には同教区イーロフ主教参列)。 |
| 782 | | | 6.17 | 教会音楽祭第25回目に参加(麹町聖イグナチオ教会主聖堂)。 |
| 784 | | | 6.24 | 竹田教区主教退職感謝記念会(6月15日、聖アンデレホール)。「在任13年間は教区大転換の時期...」と報告記事に。「信徒按手式は398回2067人」とも。788号付録で記念号発行(7月)。 |
| 786 | | | 7.8 | 英国ダービー教区へ訪問団派遣。 |
| 790 | | | 9.9 | COA第1回サマーキャンプ報告(8月、信州パイルキャンプ場、15教会37人参加)。 |
| 793 | | | 9.30 | 米国テロ事件に関する「米国聖公会総裁主教声明」配付の報告記事。 |
| 794 | | | 10.7 | 前財務主事による不祥事発覚(9月)。植田主教、フィリピン聖公会100周年記念礼拝へ参列。 |
| 796 | | | 10.21 | 神学院創立90周年記念礼拝挙行(31日)。 |
| 798 | | | 11.4 | 「改訂古今聖歌集試用版」発行(11月)。 |
| 800 | | | 11.18 | 植田主教初召集教区会案内(秋の初「定期」教区会。春を活動報告、秋を活動計画の審議と概ね位置づけ)。 |
| 806 | 2002 | 14 | 1.20 | 巻頭頁のシリーズテーマが「祈りとともに...」。 |
| 815 | | | 3.24 | 銀座朝禱会「教文館」時代閉幕(4月から「ルノアール・ニュー銀座」会議室で)。 |
| 817 | | | 4.7 | 生野センター10周年支援プロジェクト新設(教区会決議)。 |
| 825 | | | 6.9 | 日本聖公会第53(定期)総会で、試用してきた聖公会・カトリック共通訳「主の祈り」が公式確定。また「正義と平和委員会」などを新設。 |
| 844 | | | 12.1 | 第95(定期)教区会(11月)で宣教委員会を「信仰と生活委員会」、「正義と平和協議会」に改組、新体制を審議。 |

| | | | | |
|-----|------|----|-------|-------------------------------------------------------------------------|
| 518 | | | 4.23 | 時報編集専用のパソコンを購入。 |
| 529 | | | 7.16 | 戦後50年特集版・付録発行(宣教委員会戦後50年ワーキンググループ編集・広報委員会協力、計7回)。 |
| 540 | | | 11.12 | メリーランド教区イーロフ主教授手式(10月)、ソウル教区チョン・ Cholボム主教授手式(11月)へ竹田主教ら参列。 |
| 542 | | | 11.26 | 聖テモテ「愛の家(ぶどうのいえ)」落成式。 |
| 561 | 1996 | 8 | 4.28 | 第80定期教区会承認「教区宣教方針」小冊子を発行・配付(広報委員会制作協力)、カード版でも普及活動。 |
| 563 | | | 5.19 | 第49(定期)総会で「女性の司祭授手」承認、「戦責」議案を承認。 |
| 581 | | | 11.4 | 現主教座聖堂献堂式(11月3日)。 |
| 585 | | | 12.1 | 第81定期教区会で高齢者福祉施設(聖教主福祉会)へ土地譲渡、福祉活動取組みを決議。 |
| 586 | | | 12.8 | 協議会制となった教会グループの年間報告を連載。 |
| 591 | 1997 | 9 | 2.2 | 2億円募金への奉獻状況報告(5300万円)。 |
| 599 | | | 3.30 | 阪神大震災支援プロジェクト終幕。 |
| 600 | | | 4.6 | ソウル・東京「21世紀宣教大会」(6月・京畿道楊平、教区から司祭16人・信徒11人参加)。 |
| 601 | | | 4.13 | 小冊子奉仕職シリーズ「聖書朗読の喜び～礼拝における朗読奉仕への招き」を発行。 |
| 606 | | | 5.25 | 教区HP開設へ向けてワーキンググループ発足。 |
| 609 | | | 6.15 | メリーランド教区イーロフ主教来日。VAC「人間の学校」20周年キャンプ案内(榛名・新生会)。 |
| 616 | | | 9.7 | 聖教主教会礼拝堂聖別解除礼拝(8月24日:教会・高齢者施設・保育園起工式=12月6日)。 |
| 617 | | | 9.14 | 2億円募金への奉獻状況報告(7600万円)。 |
| 632 | 1998 | 10 | 1.18 | 時報巻頭頁にシリーズタイトル登場「今、ミニストリーの現場で」。これまでの教役者輪番による教会暦随想に代わり、教役者・信徒交互の感話エッセイに。 |
| 644 | | | 4.12 | 教区HP公開へ(宣教・広報・教財務委員会)。「教区時報」タイトル下ヘアドレスなど表記。 |
| 650 | | | 5.31 | 日本聖公会第51(定期)総会で「女性の司祭授手」可決。第15代首座主教に竹田眞東京教区主教が就任。 |
| 652 | | | 6.14 | 各教会・礼拝堂へHPの開設を呼び掛け開始。 |
| 655 | | | 7.5 | 教区事務所で点字ブロック設置工事。 |
| 659 | | | 9.6 | ランベス会議報告(竹田主教)。 |
| 667 | | | 11.1 | 香港聖公会(第38番目の管区)設立記念式典(10月25日)に竹田主教出席。 |
| 671 | | | 11.29 | 第85(臨時)教区会、20年振りの「秋」会開催。以後、年2回制へ。九州教区で教区主教に五十嵐正司司祭(東京聖三一教会)を選出。 |
| 675 | 1999 | 11 | 1.17 | 東京教区で初の女性司祭2師の授手式(1月6日)。 |
| 690 | | | 5.2 | 深川愛の園開園。 |
| 700 | | | 7.18 | 誌名タイトルバックがなぜか白地で印刷されるハプニング。 |
| 702 | | | 9.5 | 8頁建て発行(3師の叙任、夏期3会議参加報告)。 |

| | | | | |
|-----|------|---|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 405 | 1991 | 3 | 9 | エルサレム中東管区首座主教S・カフィティ師父来京、講演活動など実施。教区フェスティバル(9月)、福音伝道シンボルマーク使用。 |
| 408 | | | 12 | 宣教方策会議(日野ラサル研究所)、「福音伝道十年」を協議。 |
| 418 | 1992 | 4 | 12 | 時報の月刊スタイル発行時代終幕。 |
| 419 | 1993 | 5 | 1.31 | 週刊化へ。B6版4頁建て(以後、発行月日で表記)。教区事務所・管区事務所などでのパソコン編集制作作業に、また印刷も教区事務所で本格化。巻頭頁(年間を通して)竹田主教寄稿で飾る。写真掲載、報告記事が激減、その反面、催事案内などが暫増。 |
| 425 | | | 3.14 | カパティラン活動の前身となるフィリピンの母親の集い準備会開催。東京教区ビデオ完成(英語版・日本語版)。 |
| 426 | | | 3.21 | 第77(定期)教区会で教区機構改革案承認。信徒代議員中、女性議員数2割超へ。 |
| 427 | | | 3.28 | 「今週・来週の予定」欄として掲載始まる。 |
| 438 | | | 6.2 | 教会会館改装(ビジネスオフィスからプログラムオフィスへ)。 |
| 440 | | | 7.4 | ナザレ修道院、現在地で落成。 |
| 448 | | | 9.26 | 時報週刊化実施7ヶ月「アンケート」結果を掲載。 |
| 451 | | | 10.17 | 山田主教逝去(10月9日)、教区葬(11日・12日)。4頁建て特集の付録発行。 |
| 454 | | | 11.7 | 信徒代議員初の自主懇談会開催(常置委員選挙方法をめぐる意見交換)。 |
| 457 | | | 11.28 | モニカ会会報を発刊。 |
| 463 | 1994 | 6 | 1.30 | 巻頭欄に司祭職登場(教会暦に準じたテーマ)。 |
| 471 | | | 3.27 | 第78(定期)教区会で「機構改革」案可決。新宣教委員会設立へ。 |
| 475 | | | 4.24 | 東京教区常勤宣教主事に信徒が着任。 |
| 483 | | | 6.26 | 第2回聖公会・カトリック合同祈祷会(聖イグナチオ教会)。 |
| 489 | | | 9.11 | 聖公会神学院で初の体験入学を実施。 |
| 495 | | | 10.23 | 教区墓地小平霊園(建設後28年)、管理・運営の改正。 |
| 501 | | | 12.4 | 宣教委員会で小冊子「奉仕職シリーズ」を刊行(制作協力=広報委員会)。 |
| 502 | | | 12.11 | 小冊子「たくさんの恵みを預けられて～恵みの良い管理者(スチュワード)として」を翻訳・刊行(教区スチュワードシップ・プロジェクト)。 |
| 506 | 1995 | 7 | 1.29 | 阪神大震災(1月17日)被災地救援・募金等の活動開始、キャンペーンの長期実施へ。教区プロジェクトチームの活動紹介連載。 |
| 508 | | | 2.12 | 教区婦人会で約30年に及んだ「伝道協力費(牧会資金)」制廃止へ。 |
| 513 | | | 3.19 | 教区会を前にして「信徒代議員を対象に『常置委員意識調査』アンケート」実施(広報委員会)。 |
| 514 | | | 3.26 | 第79定期教区会で「痛みをもって被災教区の復興に...」と「阪神大震災2億円ファンド奉献」を決議。復興プロジェクトを設置、募金額の申告呼び掛けおよび募金開始。 |
| 515 | | | 4.2 | 日本聖公会法憲法規にもとづき「教区審判廷」制を導入(前記教区会決議)。 |

| | | | | |
|-----|------|----|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 342 | | | 5 | 教区事務所、ワープロ付きコンピュータ導入。教財務サービス委員会発足(10月)。 |
| 344 | | | 7 | メリーランド教区次期主教イーストマン師父来京。各種懇談・講演会。 |
| 346 | | | 10 | 10回目の教区フェスティバル「雨の熱気を館内に」(9月・立教女学院体育館)。旗コン(第3回)・味コン(第1回)も併催。 |
| 352 | 1986 | 61 | 5 | メリーランド教区との協働、実施へ。 |
| 354 | | | 7 | 教区神学生後援会再発足(6月)。 |
| 355 | | | 9 | 南ア聖公会ツツ大主教来日、記念礼拝、説教(8月・立教諸聖徒礼拝堂)。 |
| 356 | | | 10 | 教区フェスティバル(9月・立教女学院)でのカトリック白柳誠一東京教区大司教説教要旨を特別号で発行。 |
| 358 | | | 12 | 教区予算9千万円台に(財政担当懇談会)。広報委員会研修会(11月)講師にカトリック月刊誌「あけぼの」編集長のシスターを迎えた。ナザレ修女会創立50周年礼拝(11月)。 |
| 360 | 1987 | 62 | 3 | 日本聖公会組織成立100年紙上キャンペーン続く。感謝記念大礼拝(5月16日・大阪=説教者カンタベリーR・ランシー大主教)、大カンタベリー展(池袋東武デパート)、東京・横浜・北関東合同晩祷(立教)、その他関連催事。東京教区成立100年記念礼拝を一足先に挙行(2月11日・聖アンデレ主教座聖堂)。 |
| 364 | | | 7 | 教区財務の電算化へ始動。 |
| 366 | | | 10 | 竹田眞司祭(聖公会神学院校長)、東京教区被選主教に(9月15日・第71臨時教区会)。山田主教感謝の集い(9月23日・教区フェスティバル)。 |
| 368 | | | 12 | 山田主教退任(12月13日に感謝会)。前号から「主教のアルバム」紙上掲載。広報委員会で「広報フォーラム」開催(11月)。 |
| 369 | 1988 | 63 | 2 | タイトルバックに変動(マイター図から魚型地紋へ)。第7代教区主教に竹田師父着座(1月6日=東京カテドラル大聖堂、日本聖公会初の口語祈禱書による按手式)。「奉献先紹介コラム」開始。 |
| 372 | | | 5 | 管区事務所総主事に植田仁太郎司祭(聖アンデレ教会)、NCC新議長に竹内謙太郎司祭(東京聖三一教会)就任。 |
| 373 | | | 6 | 教区の宣教計画指針「しんせい」(東京教区の宣教体制確立と各教会前進のために)を5月に発行。以後、教役者会や信徒懇談会を開催するなど各方面で協議活発化。広報委員会ではアンケート実施(7月に紙面で発表)するなど紙上キャンペーン。「まこと地域センター(深川勤労青少年センター)」創立20周年記念催事(5月)。 |
| 380 | 1989 | 平1 | 3 | MRI委員会フィリピン小委員会ニュースレター「サンパギータ」を発刊。 |
| 381 | | | 4 | 後藤主教3月12日逝去(4月1日教区葬)。 |
| 392 | 1990 | 平2 | 5 | フィリピン宣教師ナンシー・サブク師来京、プロジェクト始動活発化。 |
| 396 | | | 10 | 教区フェスティバル(9月・香蘭女学校)「福音伝道の10年に向けて」。聖公会神学院に初の信徒校長就任決まる(菊地栄三・1991年4月から)。 |

| | | | | |
|-----|------|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 287 | 1979 | 54 | 11 | 後藤主教着座20年記念で紙上アルバム掲載。大韓聖公会ウルサン聖公会献堂式へ主教ら12人参加。 |
| 288 | | | 12 | 着座20年感謝礼拝・感謝会。年末で退任。 |
| 290 | 1980 | 55 | 3 | 臨時教区会(2月)で主教選出ならず。 |
| 293 | | | 6 | 臨時教区会(6月)で主教選出ならず、日本聖公会総会に委ねることに。 |
| 299 | 1981 | 56 | 2 | 日本聖公会臨時総会(1月)による東京教区主教選挙第1回目で西村哲郎司祭(立教学院チャプレン)を選出。 |
| 300 | | | 3 | 西村司祭、被選主教を辞退。 |
| 306 | | | 10 | 広報委員会主催「教会報制作者の集い」開催(9月)。 |
| 307 | | | 11 | 日本聖公会第37臨時総会(11月)で教区主教に山田襄司祭(阿佐谷聖ペテロ教会)を選出。 |
| 309 | 1982 | 57 | 2 | 第6代山田教区主教按手式・就任式(1月6日・立教女学院聖マーガレット礼拝堂)。 |
| 315 | | | 9 | 広報委員会主催「教会報の作り方講習会」(6月)。 |
| 316 | | | 10 | 初の全国共通聖職試験(9月)、東京から3伝道師が執事試験を受験。 |
| 317 | | | 11 | 第5回東京サミット(常置委員・常設委員長宣教方策会議)。 |
| 318 | | | 12 | 日本スペシャルオリンピック(11月・駒沢競技場)へ教区からボランティア190人参加。 |
| 319 | 1983 | 58 | 2 | 編集人欄に「(広報委員会)」を加筆、以降、月刊時代最終号まで踏襲。銀座朝祷会10周年記念集会(1月・交詢社)。 |
| 322 | | | 5 | 教区成立60周年記念礼拝(立教タッカーホール)。 |
| 323 | | | 6 | 聖公会・ローマカトリック教会合同祈禱会「歴史的集会」(5月18日・聖イグナチオ教会=聖公会から主教10人を含む400人が出席)。日本聖公会総会(5月)で河野裕道司祭(池袋聖公会)を管区事務所総主事に任命。 |
| 325 | | | 9 | 初の青年「小笠原ワークキャンプ」実施(7月、以後5年連続開催)。 |
| 326 | | | 10 | 教区フェスティバル(9月・立教女学院)。「フォトコンテスト(第1回)紙上発表。「旗コンテスト」併催。 |
| 327 | | | 11 | 逗子サミット(合同の報告書・常設委員長教区宣教方策会議)報告。 |
| 328 | | | 12 | クリスマス・グリーティング教会別紙上交換(全聖職の顔写真併載)、以後恒例に。 |
| 334 | 1984 | 59 | 7 | 韓国聖ペテロ学校へ募金計1千万円を届ける(山田教区主教ら)。1981年来この年10月末で1050万円余りに。第15回教会音楽祭(6月・東京カテドラル聖マリア大聖堂・当番教会=聖公会)。 |
| 336 | | | 10 | 教区フェスティバル(9月・立教女学院)。第2回「フォトコン」紙上発表。「旗コンテスト」併催。 |
| 337 | | | 11 | 第1回日韓セミナー開催(10月・ソウル=両聖公会による「共同声明」)。 |
| 338 | | | 12 | 広報委員会主催「教会報づくり講習会」(11月)。以後、1987年まで毎年実施(含講演会)。 |
| 341 | 1985 | 60 | 4 | 松戸集会伝道所土地取得500万円募金(教区会決議)始まる(～1987年12月号=約620万円報告)。 |

| | | | | |
|-----|------|----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 167 | | | 7 | 紙代1部10円とタイトル下部に明記。第1回超教派教会音楽祭開催(6月、東京カテドラル聖マリア大聖堂)。 |
| 172 | 1969 | 44 | 1 | 第29総会主教会告示により教役者定年制実施(男子教役者満70歳・婦人伝道師満68歳)。この年教区では婦人1人を含む10人の教役者が該当した。 |
| 174 | | | 3 | 教区事務所の電話番号が(433)0987に。 |
| 175 | | | 4 | 聖公会新聞(201号)と合併発刊。同誌は現行新聞同版型、ほぼ同紙面構成ながら4頁を別刷り「特集・東京教区版」に当てて12頁建て特別号。同誌の「祝200号」を兼ねた異例の企画で、教区内全教会・礼拝堂を写真入り紹介、読み物満載。 |
| 184 | 1970 | 45 | 3 | 後藤主教、NCC議長に選出される。 |
| 193 | | | 12 | ワシントン教区との姉妹関係終結。 |
| 200 | 1971 | 46 | 8 | 記念特集号(A4・12頁、編集関係者による寄稿回顧)。巻頭頁で大韓聖公会ソウル教区からの訪日団歓迎記事。 |
| 203 | 1972 | 47 | 1 | 1部20円の表記に。 |
| 204 | | | 2 | タイトルバックが横書きに。 |
| 216 | 1973 | 48 | 2 | 教区成立50周年。以後、紙上キャンペーン続く。第100代カンタベリー大主教来日(3月)。宣教・社会・MRI・財政・広報5常設委員会制へ機構改革に伴い、教区時報編集委員会は広報委員会と改称。時報の誌名を一般公募(218号)したが結果の公表なし? 朝禱会が50周年記念の一環として開始。 |
| 224 | | | 10 | 50周年教区記念キャンプ(8月・清泉寮・240人)。真光教会、赤羽から現在地へ移築、起工式(9月、教区50周年記念事業)。「教区成立五十周年記念・五十年のあゆみ」折込式手帳版発行(略年表・教会写真掲載)。記念タオル発売(3000枚)。 |
| 225 | | | 11 | 50周年記念大礼拝(10月7日・立教タッカーホール)施行、1700人参加。記念献金33万1千円 |
| 228 | 1974 | 49 | 2 | 聖パウロ教会現在地へ移築、献堂式(1月)。「教区婦人会」と改称、新発足。時報、青刷りを試行(~232号)。 |
| 237 | | | 11 | 後藤主教着座15周年記念礼拝。 |
| 239 | 1975 | 50 | 2 | 松戸集会から「伝道所」へ(12年目)。 |
| 240 | | | 3 | 聖アンデレ主教座聖堂牧師館4階建て落成(3月)。 |
| 245 | | | 9 | BT(釜山・東京)プロジェクト実施(以後1年間、4人の聖職を派遣し協働宣教、ウルサン教会建立へ)。 |
| 253 | 1976 | 51 | 6 | 教区礼拝を「教区フェスティバル」と改称、初実施(9月、立教女学院、950人)。 |
| 259 | 1977 | 52 | 2 | 紙代1部30円時代へ。聖マルチン教会17年目にして現在地に定着。 |
| 271 | 1978 | 53 | 4 | 「東京教区べんり帳」を発刊(4月、信徒一覧も併載、500円)。軽井沢会議開催(教区宣教方策会議・6月)。 |
| 274 | | | 7 | 教区卓球大会(教会グループ対抗戦)開催(6月・立教中学校体育館)。優勝、下町グループ。 |
| 275 | | | 9 | 軽井沢会議(常置委員・常設委員合同会議=8月)報告。以後、東京で毎年開催。 |

| | | | | |
|-----|------|----|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 87 | | | 12 | キリスト新聞社杯神学校野球大会で聖公会神学院優勝（優勝戦 = 8対5 東京神学大学）。 |
| 89 | 1959 | 34 | 6 | 蒔田教区主教病を得て退職。6月臨時教区会で大久保直彦北関東教区主教を選出するも辞退された。教区日曜学校宣教百年記念連合礼拝、日本聖公会宣教百年記念礼拝写真特集（4月7日、東京都体育館。カンタベリー大主教参席）。 |
| 91 | | | 9・10 | 被選主教に後藤真司祭（立教大学チャプレン・教授、9月12日臨時教区会）。 |
| 92 | 1960 | 35 | 3 | 後藤教区主教按手式・教区主教就任式。 |
| 93 | | | 6 | 東京聖三一教会、青山から現在地へ（5月地割式、翌61年3月に献堂聖別式）。教区事務所は聖アンデレ教会内へ。 |
| 100 | 1962 | 37 | 1 | 組織成立記念礼拝（第75回）。発行人文書部が庶務部を含む教務部と改組され、以後発行人は教務部。 |
| 103 | | | 5 | 蒔田主教逝去（4月26日）。 |
| 105 | | | 7 | オーガニスト対象の礼拝音楽研修会発足（隔月開催）。 |
| 109 | | | 11 | 教役者初の定年制設置（主教75歳・司祭72歳 = 日本聖公会総会および主教会決議）。 |
| 110 | | | 12 | 発行人（編集人別途）= 教区教務部が以後、発行人 = 東京教区となり現在に至る。 |
| 115 | 1963 | 38 | 9 | 変形B5判12頁建て。教区成立50周年（1973年を目指した目標（現在受聖餐者1万人 / 記念礼拝を新築大聖堂で！）を公示、キャンペーン。第1回教区キャンプ施行（7～8月、清里清泉寮、200余人）。 |
| 116 | 1964 | 39 | 1 | 第44定期教区会（前年11月）報告。ワシントン教区との姉妹教区へ、「相互依存・相互責任」MRI運動開始。教区予算500万円台に。タイトルバックが牧杖とマイターの地紋に変遷。 |
| 123 | | | 8 | 現教区会館落成（6月28日）。ワシントン教区主教クレイトン師臨席。 |
| 127 | | | 12 | 教区共同墓地（小平霊園）建設委可決（第45教区会）。 |
| 154 | 1967 | 42 | 5 | 松下正寿立教大学総長、東京都知事に立候補。 |
| 159 | | | 11 | ワシントン教区モア補佐主教来京。歓迎プログラム。 |
| 161 | 1968 | 43 | 1 | 宣教・MRI・財政・社会4常設委員会制へ。各委員長を交えた中央協議会制の実施へ。 |
| 162 | | | 2 | 深川勤労青少年センター落成式（2月）。 |

【略年史について】

本号の発行企画後、保存史資料（教区資料保全委員会作成・管理の製本、教区時報など）を、広報委員数人が手分けして調べた。創刊準備号（本紙巻頭頁参照）にも触れ、戦後の文書活動への思いを垣間見る機会ともなうた。史資料で欠けている部分は立教大学・聖公会神学院各図書館、聖公会新聞社に照会して確認、補充もした。企画自体が4月半ばに持ち上がったため、年史調査に十分、時間を割くことができなかった。中には確認を要するような事柄にも出合ったが、裏追いはかりか原稿校正すら十分に果せないままに発行することに。1号ずつ丹念に調べるほど記録として掲出したい催事とか言動が浮びあがり、年史部分だけでも想定行紙数を大幅に越した。割愛を強いられた、偏った取舍選択となりがねないような事柄もあったかと。最終的には不十分と言わねばならない、略年史に仕上げざるを得なかった広報委員会の繰り言でもある。

東京教区時報でたどる略年史

| 通算号 | 西暦 | 和暦 | 月 | トピックスなど |
|---------|------|-----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 復刊準備号 1 | 1948 | 昭23 | 6 | 戦後最初の再刊号。ガラ紙使用のため今では黄ばみが激しくインクも退色状態で判読が困難…。謄写筆耕(ガリ刷り)、B5版6頁、縦組み。教区事務所(池袋・聖公会神学院焼跡の洋館校宅の一室)で発行とある。「修女会ウエハース頒価=小型100枚20円・大型25枚20円」。 |
| 同 3 | | | 8 | 第1回教区青年キャンプ開催(3泊4日・湘南葉山海岸YW寮)20余人参加。 |
| 復刊第1号 | 1949 | 昭24 | 7 | 1000号へ至る実質創刊号。B5版4頁建て、活版印刷。巻頭に蒔田誠東京教区主教(第4代・1947年に着任)の「主教の言」。編集発行人、今井直道司祭。聖公会神学院が池袋から本郷へ。教区青年会結成式(6月・聖三一)。 |
| 2 | | | 8 | 「所属54人の聖職と教役者、26教会全信徒を自分の背に負ふて居る事をひしひしと感じて居る」と主教。日本聖公会全国青年連盟大会の開催報告記事。 |
| 3 | | | 10 | 教区連合礼拝(日本聖公会宣教90年記念礼拝)挙行。池袋・聖公会神学院跡、陪餐者450人。 |
| 6 | 1950 | 25 | 4 | 西暦年で併記始まる。タイトルバックに飾りが入り、通算号の数字も明記。発行所は教区文書部とも。 |
| 10 | 1951 | 26 | 2 | 第28定期教区会で「1日1円献金(主教資金)」を決議、毎月1回の主日信施を教会資金として教区へ。この年、「財団法人東京教区維持財団」を解散し「宗教法人東京教区」に。 |
| 17 | 1952 | 27 | 3 | 神学生後援会発足(毎月1人1口100円)。 |
| 20 | | | 8 | 時報印刷代毎月1200円…、紙代寄付を呼び掛ける。 |
| 25 | | | 4 | 紙上広告(明治生命・龍土軒ほか)掲載が定着。 |
| 26 | | | 5 | 1円献金35万円突破記事。 |
| 27 | | | 6 | 聖職の健康保険加入。 |
| 50 | 1955 | 30 | 5 | 日曜学校大斎克己献金奉献礼拝復活(21校参加3万6千余円・東京聖三一教会)。 |
| 54 | | | 10 | 教区初のボーイスカウト誕生(立教チャペル)。 |
| 56 | | | 12 | クリスマス号、表紙全体を手描き絵で飾る。 |
| 61 | 1956 | 31 | 4 | 英語会衆聖オルバン教会聖堂聖別式。 |
| 72 | 1957 | 32 | 5 | 日曜学校大斎克己献金奉献礼拝(28校1400人、9万3千余円・立教大学)。 |
| 78 | | | 12 | 教区自立基金1億円奉献運動開始(教区会決議=大聖堂の奉献・教会資金の充実・伝道諸事業の助成)。1人毎年1回、1口千円。 |
| 81 | 1958 | 33 | 4 | ナザレ修女会日本聖公会初の独立修女会に。 |
| 83 | | | 6 | 誌名地紋に天使二像が入りタイトルがデザイン化。 |
| 84 | | | 7 | 基督教教育世界大会(8月、都体育館・青山学院、生徒大会を含む多彩なプログラムを展開)。 |
| 86 | | | 10 | 教区宣教百年記念礼拝・祝典(9・23)、立教タッカーホールに1500余人。写真特集。 |